

榎の木だより



発行：榎の木福祉会（法人本部）

一宮市富田字砂原 2147

Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200

榎の木福祉会 ホームページ

http : www.kasinoki.jp/

ひとりひとりひかる

きぼろ



「らでうす」 ハロウィンパーティー！！



「らちえっと」 利用者、職員で寸劇



「かしの木の里」 念願の
「およげ！たいやきくん」デュエット



「榎の木園」 浜名湖パルパル クルーズ船



鬼滅の刃の映画を見たよ



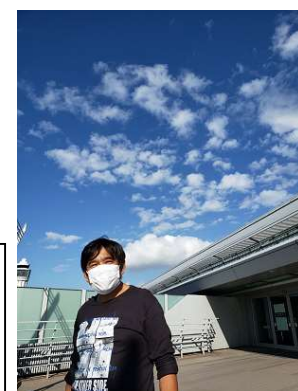
「ステップ」 施設外就労にて
「働き者、福を掻き込め！」



「榎の木作業所」 日帰り旅行 みかん狩り

新型コロナに負けないで！

盆踊りやフェスティバルが中止になりましたが、日帰り旅行やハロウィン、バーベキューなど各施設では少しでも皆さんが楽しめるような行事を行いました。もちろんお仕事も頑張ってくださいました。新しい年が、安心してより多くの活動ができる良い年となりますように。



「チャイブ」セントレア



「チャイブ」バーベキュー



新年のごあいさつ



新年 おめでとうございます。

昨年は「新型コロナウイルスって何なの。」で年明けを迎えた記憶があります。その2～3か月後には身近な恐怖と捉えるようになりました。榎の木福祉会にとっても事業を継続させ得るか神経を擦り減らした1年でした。

関係機関や保護者並びに地域の方々のご支援ご協力と職員の努力により、コロナ感染症に侵されることもなく新年を迎えることができました。ここに改めて関係各位に厚く御礼申し上げます。

ただ、例年実施しておりました運動会をはじめ中心的な行事の開催ができなかったことがとても残念でなりません。利用者の方々には、事業所内でささやかながら楽しんでいただける機会を提供できるよう工夫してまいります。

さて、榎の木福祉会は昭和56年(1981年)に法人化して以来、今年が40年目に当たります。各事業所の施設・設備も老朽化が進み、順次改修工事や改築工事が必要になってまいります。しかしながら、改修工事や改築工事に対しては、国や地方公共団体から補助金の交付を受けることが極めて困難な状況にあります。すべて自己財源で進めなければなりません。本法人にとって、これからは財政的に非常に厳しい時代となり、それを乗り越えていかなければなりません。

関係各位の旧倍のご支援、ご協力をお願いし、年頭のご挨拶といたします。

明けましておめでとうございます。

今年度は、「かしの木の会 総会」も40回目という記念すべき年でした。

総会に向けて準備を進める中、新型コロナウイルスによる感染症がパンデミックとなり、総会開催そのものが危ぶまれました。一堂に会しての開催は見送らざるを得ないとの結論に至り、書面表決を実施しました。運営委員会の決定にご理解いただき、ご協力いただいた会員の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度半ばを過ぎてもコロナウイルス感染症は収束の気配を見せず、感染がくすぶり続けています。そんな中でも、榎の木福祉会の職員の皆様は真摯に利用者の方々を支援し続け、事業を継続されています。

榎の木福祉会の奮闘に対し、感謝の意を表し、かしの木の会から感染症対策用品費用を寄附させていただきました。

今後も感染状況によって、本会もどうすべきか協議を続けてまいります。

今はコロナ禍で活動そのものが難しい状況ではありますが、可能な限り皆様との対話を通して本会の活動のこれからを考えていけたらと思っておりますので、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

最後に、10月に元会長の黒原様のご逝去されました。本会の活動にご尽力された黒原様の想いをどこまで引き継いでいけるのか、私では力不足ではありますが、少しでも黒原様のご遺志を継ぎ、これからも精進して参る所存です。



榎の木福祉会理事長 北川 登



かしの木の会会長 小杉 ひふみ

100号記念座談会(第2回)

日時 : 令和2年 9月19日(土) 9:30~11:30

場所 : 夢かけと

参加者: 北川 登 氏: 檜の木福祉会 理事長
 只井 秀明 氏: 檜の木福祉会 事務局長
 小杉 ひふみ氏: かしの木の会 会長
 浅野 裕美 氏: かしの木の会 広報委員
 大川 哲弥 氏: らでうす 管理者
 武田 信之 氏: GHCかしの木管理者
 檜の木福祉会 広報委員長

他 座談会スタッフ

松田孝一、浅野雪香、山田絹子、若山正憲、
 藤谷輔、田代容子、村上智(敬称略)

武田 今の広報について、まずは広報が出されることによつて有効だったことについて話して頂ければと思います。

只井 ここ数年の動きで一番大きかったのは、2年前から檜の木福祉会がきぼうの発行の主宰となったことです。それにより、委員会の職員が1人か2人の参加人数だったのが、一気に6、7人になって、生の現場の声を届けながら一緒に機関誌を作ることが出来たのが大きな成果だと思います。令和2年になって新型コロナウイルスが出てきました。法人として今できることはと考えて、皆さんに現状を伝えるのが一番良いとのこととなり、7月号でコロナのことを書いたのが心に残っていることです。

武田 100号を7月1日に出す予定だったんですが、延期にしてはどうかなど話されていました。その辺りはどうですか。

浅野 7月号は延期になったんですが、その後に号外を福祉(裕)社会の主体で出して頂くことになって、保護者としてだったらこの号外は出せなかったなと思って。保護者の皆さんからも、福祉会が一生懸命やってらっしゃるのが伝わって良いという話を頂いたし、そういう意味では福祉会に主体が代わっていたからこの号外だったし、すごく良かったと思いますね。

北川 コロナの蔓延ということで編集会議等の運営が難しい現状をどうしたら良いか、100号は特別号として編集

したいということで、間に合わないから延ばしたいと聞いたので、それはまかりならんでしょ、年4回発行すると言っているんですから。現状、頑張っていることを号外として皆さんに発信しようとお願ひしたわけです。そうしたら見事に、あつという間に編集されて、号外を発行することが出来ました。

大川 今回のコロナで、法人としてどんな取り組みをしているか、実際に管理者クラスが集まって協議しながら、やはり未知なウイルスというのもあって、対応方法を保護者さんや、ニュース、厚労省から出されている情報を上手に活用しながら、事業所でめいっぱい出来ることは何だろうかということを模索しています。

武田 皆さんに知って頂く役割になったと思うんですが、この状況に対して親御さんがどんな思いでいるというのは載っていなかったんですね。福祉会主体で出しているんですが、会の皆さんに協力してもらいながら一緒に作っているのであり、その辺りはどうでしたか。

小杉 会の運営としては高齢の保護者さんが多い関係で、やはり総会は実施できないでしょうと、それを受けて丁寧な説明がいるという風に頭がいっぱいになっていました。実際に保護者さんは楽観的な方もみえれば、私よりも深刻に受け止めていらっしゃる方もいて、どんな状況が得られれば安心して頂けるかなど考えていました。その中できぼうの号外が出されたことで、保護者さんも自分の手を離れたところで生活している子ども達がどのように守られているかを知る良い機会になったと思います。

浅野 保護者さんが知りたいのはあるんですが、それを保護(裕)者側の編集委員としては福祉会の方も忙しい中で頑張っていられるのを分かっている時期に、その形にして発信して下さいとはなかなか言いづらい。そういう意味では福祉会から出して頂いたのは、ありがたいですね。

小杉 普段の業務以上に気をつけなければいけないことが各事業所さんであったと思うと、私たち保護者の方から更にとすることはお伝えしにくい状況はありました。だからと言ってかしの木の会独自でというのも、その情報が正確かどうか心配なので無闇やたらに発信は出来ないと思うと、今この状況なので総会は開けませんということしかお伝え出来ない現状があります。

武田 どうしてもはっきりしていないところとか、少しフアジーな感じで伝えなきゃいけないのがあって、各事業所の原稿にそれが滲み出ていると思います。

北川 法人が主体的に発信していくのが本来の役割だという基本的な考えを持っていたので、色々と相談があった時に、中心になって担っていくと、今までのお骨折りを無にしてはならない、それを含めて更に発展させていく方向にもっていく気持ちは強かった。ただ、今までかしの木の会の方々を中心になってやってこられた熱い思いを、今度は法人が主体になって発信していく時に、発展的に引き継いでいけるのかが大きな使命だと考えているので、それは皆様が評価して下さいという思いは持っています。

武田 色々なものを反映させてきた親御さんの気持ちを考えると、今のこの形はどう思われますか。

浅野 保護者会だけでやっていた頃に比べると、印刷や、(裕) 編集、発送とかは随分福祉会の方にもって頂いて作業面ではありがたい。保護者だと視野が保護者会に偏りがちなんですが、福祉会職員さんが入られたことで、色々な情報とか思いが入ることで、視野が広がったし良いと思います。私はまだこの10年くらいしか編集に携わっていないんですが、発行当時こいちゃった皆さんのお話を聞いて、保護者の熱い思いがまず原点にあって、題字も初代会長さんの字だという話をお聞きすると、福祉会に主体が移っても最初の根っこのところは残しておかないといけないのかなど。保護者側の編集委員としてどこまで伝えられるか自信は無いんですが、保護者の思いや姿勢をきちんと伝える立場として、作業の手間は減ったけど重いなという思いが正直言っています。

山田 私も関わらだしたのは10年くらいなんですが、他の保護者達の代表として私たちが言える立場であった方が良いのかなというのがあります。子どもが普段どんなことを施設の中でしているのか様子を知りたいし、他の施設ではどんなことをしているのかというのも興味があるところで、そういった点で、広報に会の保護者がなかなか入って頂けないので、若い親御さんの意見が聞こえてこないのが問題なんです。その辺りは私たちももう少し積極的に参加して良い形にできたらと思っていますね。

浅野 多分、福祉会の方が思っているより、親は施設の中で(裕) 子どもたちがどう過ごしているかを知りたいという気

はします。利用者の人たちは、言わないんじゃないって言えないんだらうなという気持ちがあるので。前回の座談会でも施設の様子が知れたかったということ黒原さんが仰ってみえましたが、施設側からでも、保護者側からでも良いですし、日常をどう過ごしているかという情報は入れて頂けると、福祉会の立場で保護者が要望するより先にパツパツと情報が伝わるのはすごくありがたいし、偏らないように両立させていくのは大事だと感じています。

松田 今、保護者の一番の心配事というのはグループホームをこれからどうしていくのというところなんですね。だから、法人ではこんな風な将来計画があるとか、こんな風な取り組みをやる予定だというような具体的なことを何かアナウンスしてもらえるとありがたいと思いますね。

小杉 保護者の願いや思いというのが、うちの会の場合は、施設に通われている重度のお子さんから一般就労されていらっしゃるお子さんまで様々な方がみえます。皆さんは様々な悩みや将来に向けての不安を抱えていらっしゃるの、満遍なく光を当てて頂きたいです。どうしても施設に所属されている親御さんに偏った情報発信になりがちですが、やはり一般就労の方、アットホームという風に在学の方もいらっしゃるの、そういう様々な保護者向けの発信をお願いできればと、その為には保護者が編集会議なり関わっていかないとそういう発信に繋がっていかないとかなと思います。

只井 読者に向けて求めている記事を書く側としては、ニーズを出してくれる方々の意見が必要なんですね。やはり利用者さんの生の姿を保護者さんにどう届けるかというのが機関誌の目的になってきます。今、法人としての動きの中で中長期計画をどうしようかと話し合っていて、それを作っていく段階にあります。そういうのも保護者さんに届ける必要があるかなと思います。やはり情報発信という中で現場の声と法人の考え、福祉情勢などを伝えたいと思っています。平成18年10月に自立支援法になった時には、一生懸命勉強して自分の中に落とし込んで、それを文字にして皆さんに伝えたものが随分ありました。そういうことが必要になってくると思います。

大川 法人として長らく課題だった、ビジョンはあっても具体的なところをどうしようという時に、措置から支援費、

自立支援法、総合支援法へと目まぐるしくこの15年ぐらゐの間で変化していく中で、制度を調べて組み入れられるものは積極的にやった。ただ、そこで制度が変わった時の擦り合わせがずっと課題だったんですが、ようやく制度自体が落ち着き始めたことと、法人自体も体制的なところで腰を据えて意見を述べられ、今までであった事業も大切にしながら将来どのようにしていくか。まずは中長期といった5年ビジョンで課題を抽出するところから始めている段階です。ここがもう少し固まった時に、皆さんにお伝え出来るというのがあります。ただ、この情報をちゃんと発信しないと誤解を生んでしまうデリケートさがあるので、皆さんが法人に対して期待する部分や、こちらとしてもやりたい部分を慎重に進めながら、会報で伝えられる内容があれば、中長期とか会報誌の場で橋渡的な手助けが出来たらと思います。

北川 かしの木の会の方が中心になって今まできぼうを支えていた大きな柱が、地域社会や行政関係に熱い思いを障害者福祉の方にもっと注いで下さいというメッセージを込めた大きな働きがありました。障害者福祉が地域社会の中でどう総合的に支援していくか発想も変わってきているので、考え方がどこまで定着しているか、本当に障害者福祉のことを分かっているのは何人いるかということです。正直言いまして、町内に檜の木福祉会のグループホームや色々な事業所を作る時に大きな抵抗がありました。情報発信して、そういう時代じゃない、みんなで支えあう時代ですよということを、時間をかけながらお願いして、やっと表面に反対の声は出なくなりました。建設は可能になったけれど、本当の意味で理解されているかは、まだ時間がかかりますね。地域社会の多くの方々に対して、法人がもっと努力し、かしの木の会が支えて下さった理念をしっかりと継承し拡大しないといけない。あと、内容だけの問題ではなく、会報の発信先を今のままで良いのか。事業所のある町内会にどこまで発信されているか、そこまでやれていないですね。全戸配布でなくても回覧板に挟むぐらゐはやっても良いんじゃないか。もっと地域の方々を知って頂く情報発信をする必要があるんじゃないかという期待をもっていますね。

武田 今の会報について、こんな記事があったらなど具体的な意見を聞かせて頂けたらと思います。

大川 僕らは、保護者さんに向けて保護者会で発信してきたつもりだった。保護者会では言葉で形に残るものではないので、聞いた内容が留まる率は低いし、イメージが湧きにくいのはあったかと。きぼうの記事は文章としてどうしたら分かりやすく短い内容でやるかを考えること、もう一つが写真を1、2枚でも添付することで、保護者さんにイメージを広げてもらうことができ、施設紹介の意味合いは大きいと感じました。同じ生活介護でも取り組み自体、各事業所で違ったり、まして法人が違えばやはり違いは大きく出てくる。そこで檜の木の良さを発信できるので、今一度整理しなきゃいけない。どう詰めていったら皆さんに届けられるかは今後の課題にしたい。

武田 役に立つ情報、少し別の角度から入れたリラクセスしているものはどのように思われますか。

小杉 保護者目線でいうと、こんな図書がありますよという紹介と考えられるんですが、発信先がどこかによって変わってくるのかなと思います。発信先をもっと広く考えた時は、もう少し知名度がなかったら障害者のものを載せて頂いた方が説得力なり関心を持つなりに繋がっているかなと思う。どこに向けての発信かでお願ひ先がかわってくると思いますけど。

只井 図書でいうと『世界の中心で愛をさけぶ』など、また、映画だと『レインマン』などを、障害者関係のものを記事に書いたこともありました。職員やお母さんに料理紹介をかいてもらったこともありました。これは第3種郵便の為のコーナーというか一般向けのものも載せないといけないのがあったからです。

小杉 この時点では関心を持った方がいらっしゃった証でもあるので、再度聞くという考え方もあると思います。全く関心がなければもっと低かったんじゃないかと思うし、そうじゃないところを見ると1つのコーナーとして目を引いていた。それと色々な方向けに発信した時に、ここに注目される方、違う記事に注目される方と思うと、多岐にわたる記事の方が広く関心を持って頂けることに繋がらないかなという思いはあります。

武田 それと、かしの木の会から檜の木福祉会に主体が移って、実際に現場の職員は広報委員会に出るようになってどう思っているか。

藤谷 広報委員会に関わるまでは、会報誌に対してそこまでしっかり読み込もうとか意識していなかったのが本

当のところでは、実際に委員会に入って、こういう風に作ると分かって、作っていく意味が分かりますし。逆に、僕自身が作る立場になって後輩たちに渡していく時に、たぶん興味ないだろうなという思いがみえるんですけど、1回見てよと声かけが出来たり、後輩が見て為になるものを作っていけたら良いと思います。

北川 職員の興味関心がわくという中には、一般の方々にも響く中身を考えていく必要があります、職員にとっても発見や学びがあると思います。そういう記事を読んで、自分はそういうことに気づいてないとか、そういう目で利用者の方々に接しなきゃいかんと先輩から学ぶとか、気づき、思い、些細なことでも発信していく。たぶん職員にも何かきっかけになって、学び、発見したということは他の方にも響くはずだという発想です。興味関心をひくものを工夫するのも1つの考えだと思いますね。

田代 今までやってきたことを伝えていくというのは、なかなか出来ていなかった部分があるので、記事にするには自分の中でもしっかりこうだというのがないと書けないこともある。私たちも、積極的に伝えていく必要があるんだなと思います。

村上 事務が専門で、編集をやらせて頂いて色々な記事を見ているが、全体的に法人からの訴えというイメージになっていて、保護者の本当に知りたいことや細かいところは文章的には出てこないことが多い。日々の利用者さんに関わっている支援員のそういう姿が見られると保護者の方も安心できるのかなと。事業所の紹介の時は事業所全体の紹介になるので、こういうことをやっていきますよというのがあっても、細かいいつもの風景ではないじゃないですか。そういうところがあつたら良いなと思っている。

大川 伝えたいという思いが、コロナの時と比べた時に温度差があったと思う。親の思いといった丁寧さを当然知っているものとして、なんとなく汲み取って書いていたところがあった。委員会に入って、どういう思いだったとお話を聞いたところや、文章構成をどうしようか、誤字脱字の確認をしていく中で、どんな思いで相手が記事を書かれたかというところも踏まえて読み込んでいく。一緒にやっていく中で、読み手のことを考えながら内容を汲み上げなくてはならないと響いたものもあるから、書き方の部分とか表現を注意しなく

てはいけない。実際に携わっている温度と聞き手の温度は当然違ってきますが、以前よりはそういう部分で違いがあると感じる。

武田 最後に、これからの会報に期待すること、会報の役割を話して頂きたいと思います。

只井 どこまで、このきぼうが地域の方々に伝わっているか心配です。図書館や市役所にはきぼうがあるんですけど、地域の喫茶店等に置いて頂くのもこれからやっていく必要があるのかなと思いました。

武田 実際にそれを発信していく時に、可能かどうかも含めてどのように考えられるか。

小杉 地域の方々に関心を持って頂くとなると、きぼうの原稿に多少なりとも参加して頂くと、全く参加せずに読者としてというよりは、関心度が上がるかなと期待も込めて。上手く地域の方々を巻き込もうと思うと、読者になるよりは、記事を書いて頂くまではいなくても、インタビューするとか。福祉と関わりがないかもしれないけど、地域はこんな風ですと情報を載せてみるとかそういうことで周りの方々も巻き込んで地域への発信をする方が地道に伝わるかなと。

浅野 確かに大川さんが言われたように、自分が携わって(裕)みて初めて会報に対する姿勢が変わってくるので、地域の方々にインタビューすることなら始められるかな、と思います。自分がインタビューに答えたから読んでみよう、私が載っているから読んでみて。地道な広がり期待できるかなと思います。

只井 音楽会で招いた方々や、木曾川高校のブラスバンド部の方々に意見を聞いて載せたことがあります。それから、年1回フェスティバルを特集した特別号には、参加した人たちのコメントを載せていました。

浅野 (裕)今、コロナで大きなイベントやみんなで集まるイベントがないので、その中で会報ができることってなんだろうなと考えますね。

小杉 地域に根差していかなければ、この福祉法人の発展は難しいと思うと、いかにそういう方たちを巻き込むかというのに1番活躍してくれるのが会報かなと。保護者たちは高齢化し、若い保護者はお仕事があって。それはお仕事できる環境に福祉の環境が整ってきたとも考えられるので、一概にお仕事している方の参加率がということではないと思います。そうすると、関心を引きつつ地域になると様々な方を巻き込んでの会報というのが、大きな役割だと思います。

方が興味関心があれば読んでくれるけど、興味関心がないと素通りということで、情報発信しても要は読者にどこまで興味関心を引き付けられるか大きなテーマになってくるんです。地域の方々に発信したとしても果たして読者がどこまで興味を示してくれるか、興味関心がどういう方向に向いているかをリサーチしないと、独りよがりの一方的な発信で終わってしまうのはよくある話なので、一般の方々に何から発信していけば良いか、目にとまる、読んでもらえるか、そこから創意工夫が必要だと思いますね。

松田 地域の人へ福祉会の動きを知ってもらうために、分かりやすいもので書いてお知らせというのは大事だと思いますが、具体的にどのようなのが良いか難しい。今まで木曾川高校演奏会で山田さんがインタビューを生徒さんにもらったり先生の意見を聞いてくれたことがありました。それを同じことに適用すると、盆踊りとか音楽会とかの後にチャンスとして捉え、インタビューを載せるのは考えられますね。

山田 町内の話を聞いていて、まず町内に先に配布してそれから時間が経ってから読まれてどうですかと聞くことはできるかなと思います。それを読んでからだと檜の木のことを聞きやすくなる。実際に出てきた声を聴くと改善もできると思います。

小杉 イメージが違うかもしれないけど、町内会長さんにふってみる。町内でこんなことがあったという記事を載せることで配りやすくなる。

山田 うちの地域だと近隣の高校の広報が回覧板で回ってくる。興味のある人は読まれて、そこで意見があれば連絡が入るかもしれない。次はこの行事がありますというのも知りやすくなる。今年はコロナで行事がダメになりましたが、そういった時のチラシも入れやすくなる。前はチラシとか入れられなかったですが、あと、自主製品を会報に載せて、こんな商品が出ましたという宣伝をしたらどうか。あと、物資販売がなくなってしまったので、自主製品、クッキーとかも注文をとるような形だと良いと思います。

北川 町内会で情報発信するためには、回覧で班ごと回すのか全戸配布とか、これについては一般のコマーシャルは一切NOなんです。地域に対しての情報発信が必要な情報についてのみ町内会は班長さんを通じて考えるわけで、公共性があるかどうかということですよ。逆にいうと、法人の役割としてむしろ地

域貢献をどれだけやっていくか、地域の方々に分かって頂いているなら情報発信としてそれは必要性が高い。うちも役割を果たさなきゃいけない。いかに地域貢献しているかというあたりと相まって考えることで協力を依頼していく。それでないと地域に情報が入っていかないと思います。

松田 今日のような場で会報誌という1つのテーマを元にして、勉強会のようなものを年1回くらいはやるのが良いのかなど。今までこういうのはなかったですね。どういう風にしたら良いのか、皆さんにアンケートをとった結果でいうと、非常に総合的な記事の内容を求めている感じでした。それと、75%が現状で良いと言っているのに注目しなくてはいけません。だから、あまり内容に対する改善や、チャレンジはこの数年間しませんでした。むしろ管理的なことに力を入れていた。これからは新しい体制として今のように地域の人に馴染んでもらえる内容に中身を変えていく、大きな方向転換をしてもらうといったところではないか。

武田 これから檜の木福祉会の方々が生活していくにつれ、今以上に地域の方々の理解、地域の方々と共にというのが必要になってくる。会報誌きぼうが1つの手段になるのではないかと、皆さんの話を聞いて思いました。今日はありがとうございました。



座談会当日の様子

第1回目の座談会に参加された、広報委員の黒原勉氏が2020年10月にご逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします。

法人コーナー①

こんにちは！きーぷです 

久しぶりの投稿です。皆さんこのコロナ禍でお出かけの制限でストレスになっていませんか？

私達の事業では余暇の支援があります。移動支援や生活のリズムを整える行動援護があります。どちらも外出の支援ですので、4月から行先や時間の制限（自粛等も含む）をさせて頂いております。

皆さんが大好きなカラオケ、プール、電車に乗っての名古屋近辺は難しいかな？って思っております。緊急事態宣言が出たので、お出かけが出来ない事を理解して頂くために、絵カードや予定スケジュール等を利用して説明します。

感覚的に過敏な方でマスクが出来ない方は公共施設等への出入りが制限されてしまいます。なので、マスクにヘルパーと一緒に好きな絵を書いて着けるようになったり、マスクの素材や形を色々試してみたり、マスクになりうるようなネックウォーマー等を使用し、なるべく窮屈にならない様な工夫をして、行ける幅を広げています。そんなこんなで、皆さんとお出かけ計画を立てながらお出かけする場所は公園が多くなりました。青い空、水の流れ、花々、木々など、おかげ様で四季の彩りを今年はいつもの以上に感じる事が出来ました。



コロナ禍で通院介助、身体介護、家事援助の支援は通常通り行っていました。利用者の方の家へ

訪問して支援するので、ご家族の方もみえます。ヘルパーは常に感染源になりうることを忘れずに、自分自身の健康状態も管理しなくてはなりません。日頃から「よく寝てよく食べる」免疫力を高める食材を摂取して、ゆっくりお風呂に入り、良質の睡眠に心がけています。勿論事務所を次亜塩素酸での拭き掃除、加湿、公用車の消毒、衛生セットの所持等を徹底し、支援に入る前に検温と、体調の状態のチェックは欠かさず行います。

マスクを着用しての入浴支援はかなりの辛さがありますが、直接身体に触れての支援ですので特に気を付けて行っています。通院介助では、病院内でコロナにうつらないか？と心配されている利用者の方の横で、「大丈夫！」と声を掛けながら長い待ち時間をドキドキしながら過ごしたり、家事援助では、掃除や洗濯といつも以上に衛生的に配慮したりと気を使いながら行っています。

生活の質を守ろうと頑張っているヘルパーさん達には感謝です。


そして、そんなヘルパーに温かな声を掛けて下さった方々も多くありました。この言葉と思いがコロナ禍の中で励みになりました。

ある利用者の方が笑顔でおっしゃいました。「私、本当に買い物に行けて嬉しい。楽しみにしていたの。」この嬉しい言葉が私達の頑張りになっているのです。

まだまだこの冬を超えなくてはいいませんが、「出来ない」中での工夫をして、楽しむ事に変えていけるお出かけの支援や、生活を支える支援を守り続ける事が私達の役割と思い頑張っていきたいです。



きーぷ管理者

山口由美子 

法人コーナー②

新年を迎えて
～かしの木の仲間聞いてみた～



尾関 昌之さん
かしの木の里

- 1.楽しかったことは色々あるけど…チャレンジのみんなで音楽を聴いたことが楽しかったです。西城秀樹、河合奈保子、石川ひとみ、堀ちえみ、近藤真彦などなど。
- 2.銅線の仕事を頑張りました。仕事は長く続けているので、慣れて疲れなくなりました！
- 3.色々ありますが、これから銅線の仕事を頑張って続けたいです。
- 4.ナゴヤドームに野球を見に行きたい。ドラゴンズの歌を聞きに行きたいです。他にはコーヒーを飲んだり、稲アビで買い物をしたり、映画を見たり、ブックオフでDVDを買ったり。仮面ライダー、ウルトラマン、ドラえもん、クレヨンしんちゃん、コナンなど色々観たいです。

- 1 Q: 昨年一番の思い出や楽しかったことは？
- 2 Q: 昨年頑張ったことは？
- 3 Q: 今年頑張りたいことは？
- 4 Q: 今年新しくチャレンジしたいことや楽しみなことは？



内藤 秋子さん
カフェふらっと

- 1.ヘルパーさんと一緒に外出をしたり、好きなものを買ったり、お休みの日にホットケーキを作ったりしたこと。
- 2.カフェの仕事が13年目になりましたが、モーニングのピザトーストを上手に作れるよう頑張りました。具材とチーズを上手にのせて焼けたので、褒めてもらえて嬉しかったです。
- 3.毎日昼食後に足上げの体操をやっているため、今年も健康に過ごせるように頑張って続けていきたいと思っています。
- 4.刺繍の本を買ってきたので、針も揃えて刺繍を始めたいです。完成したら額に入れて、ふらっとに飾ってもらえるといいなと思っています！今年は長島温泉にも行きたいです。



黒原 吏奈さん
樫の木作業所

- 1.らちゅっとで食器拭きや片付けの仕事をすることが楽しかったです。お姉ちゃんとふらっとの喫茶店に行ったことも楽しかったです。グラタンセットを食べました♪
- 2.「カーラグラグ」を折る仕事を頑張りました。家では食器洗いやお風呂掃除など、お母さんの手伝いを頑張りました。腹筋50回と足踏み50回の体操も毎日続けています！それが終わってから、サッカーのゲームをしたりおしゃべりワンちゃんと遊んだりしています。
- 3.「カーラグラグ」を折る仕事と家のお手伝いを続けて頑張りたいです。
- 4.グループホームの見学に行ったり、里のショートステイもまたやってみたいなと思っています。



下部 凜也さん
ステップ

- 1.昨年のお正月に初詣で島根県に行ったこと。お参りをし、温泉に入りました。家族旅行で北陸にも行ったことがあります。今年はコロナで旅行に行けないので、来年はどこか旅行に行きたいです！
- 2.色々ありますが、特に出向で苗のポットに肥料を入れる仕事を頑張りました。金型に部品を3つ順番に入れる仕事も頑張りました。
- 3.ハーバリウムの液をボトルに詰める仕事が好きなので、来年も頑張りたいです。
- 4.最近スマホで音楽を聴くことが好きで、鬼滅の刃の主題歌など聴いています。お母さんが長洲剛のファンクラブに入っていて一緒にコンサートにも行ったことがあるので、また行きたいなと思っています。

笑顔で取材に応じいただき、ありがとうございました。
今年も皆さんにとってよりよい1年となりますように！

インタビュー

療育サポート 高島真里 らでうす 大川哲弥

法人コーナー③

かしの木の会からのご寄付に関するご報告

このたび、かしの木の会から新型コロナウイルス感染症対策に必要な機材や衛生用品を購入できるようにとご寄付をいただきました。会員様個人でご寄付していただいた方もいらっしゃるとお伺いしており、感謝の念に堪えません。

ご寄付の用途として、事業所ごとで対策に必要な物品が異なるため、空気清浄機、非接触型体温計、サーキュレーター、パーテーションなどそれぞれの事業所に必要なものを挙げ、購入いたしました。

今回ご寄付いただきました物品はインフルエンザの対策にも重宝するものですので、今冬も活躍してくれると期待しております。



2020年初頭から猛威をふるってきた新型ウイルス感染症に対し、法人が一丸となって感染対策に取り組んできました。幸いなことに、11月現在まで一人の罹患者を出すことなく支援を続けることができています。これからも利用者さんに変わりない支援を提供できるよう法人全体で取り組んでまいります。

榎の木福祉会

事業所ごとで購入いたしました物品を下表に掲示させていただきます。

事業所	物 品	数量
かしの木の里	電子体温計	4
	非接触体温計	3
きーぷ	非接触型体温計	1
	ストラップ型滅菌カード	7
ゆんたく	アクリル仕切りボード	3
	オートフディスパンサー	1
らちえっと	空気清浄機	1
	プラズマクラスター発生装置、	1
	交換用カートリッジ	1
そら豆キッズ、療育サポート	空気清浄機	1
	交換用フィルター	1
GHC かしの木	アイソレーションガウン	10
	フェイスシールド	3
	不織布キャップ	1
	非接触型体温計	2
榎の木園	空気清浄機	1
	空気清浄機	1
	空気清浄機	1
榎の木作業所	サーキュレーター	2
	空気清浄機	1
ステップ	プラズマクラスター発生装置	2
かしの木サポートプラザ	足踏み消毒液スタンド	1
	非接触型体温計	1
	パーテーション	2
	ビニールシート	1
すろーぷ	サーキュレーター	2
	アルコールディスペンサー	1
	飛沫防止パーテーション	2
らでうす	空気清浄機	1

お知らせコーナー

□ご寄付ありがとうございました。

一宮社会福祉協議会様、かしの木の会、匿名様、保護者有志様より金一封、衛生用品等をいただきました。

□これからの行事等について

1月予定の榎の木交流会は中止となりました。